

感想文

『企業大学訪問』

企業大学訪問で私は港区にある在日中国大使館を訪問しました。大使館といえば、厳重なセキュリティや、公的機関ならではの少し重たい雰囲気想像していましたが、もちろん実際に警備は厳重に行われているのですが、意外にもイメージとは異なる点がいくつかありました。警備員さんを通して正門をくぐると、木々が生い茂り、緑が多くありました。そして、2人の中国人の大使の方々は私たちをととても温かく迎えてくださいました。1人は中国語のみで、もう1人の方は通訳をしてくださいました。後で聞いたのですが、大使館の敷地内はその国の法律が適用しています。建物の前で中国大使館の歴史や施設などについての説明を受けました。その中で私が驚いたのは、敷地内にプールやテニスコート、さらにはジムがあることです。これは、大使館職員の方々が休日に体を鍛えるのに使うそうです。約50人ほどの職員の方々が大使館の近くに併設されている職員用寮に住んでいるとのことでした。その後、敷地内を案内していただきました。印象的だったのが、様々な種類の木や花が植えられていたところです。中国と日本の友好の印として送られた木が多くありました。日中友好協会から贈られた花木もありました。池には何匹かの鯉が泳いでいて、敷地内は全体的に和風の印象を受けました。そして、建物の中に入り、1階の各部屋を案内していただきました。映画ホールでは、両国の交流の際に中国についての映画を上映することがあるそうです。宴会場では、政治家を呼んで食事をします。また、過去には卓球の福原愛選手が来て、大使館職員と一緒に卓球をしたとおっしゃっていました。2階以上は、各部署の事務室となっているそうです。最後に、インタビューとして応接室で私達からの質問に答えていただきました。高校生でしておくべきことは何か、という質問に対して、マスコミによる一部の報道を全て鵜呑みにするのではなく、もっと客観的に見たほうが良いとアドバイスをもらいました。インタビューをする中で、納得することが多く、また、はっとさせられることもあり、新しい観点も取り入れられたのではないかと思います。館内を廻っている途中、私たちのグループ全員分の冷たい水を用意してくださったことが今でも強く印象に残っています。今までで一番水が美味しいと感じました。このように、想像以上にとても優しく温かく迎えてくださって、心から感謝しています。私は中国語はわからないので、おっしゃっていたことを100%を理解することはできませんでした。ですが、歓迎してくだっていることや、中国と日本の友好を願っていることなど、思いはとても伝わってきました。言葉が通じなくても分かり合えるとはこういうことなのだと、身をもって体験しました。それと同時に、大使館で働くことへの憧れが更に強まりました。今回初めて大使館を訪れてみて、将来の仕事について深く考える良い機会になりました。視野を狭めず、自分の可能性をどんどん広げていくことの大切さを学ぶことができました。

『ディレクトフォース』

ディレクトフォースでは、まず新日鐵住金についての説明を受け、更に異なる4部門の方々からお話を聞きました。仙台二高出身の方が多く、高校時代の話も聞けて良かったです。学生のときに思い描いていた職業とは違う方も多々いらっしゃいましたが、現在の環境・仕事にやりがいや面白さを見出して取り組んでいる姿が印象に残りました。新日鐵住金は社員約24000人だそうで、丸の内にあるその本社ビルに足を踏み入れることができたのはとても貴重な経験でした。社内で会議等の節々に交わされる挨拶が「ご安全に。」だそうで、みんなで実際にやってみました。新日鐵住金は近年グローバル展開を進めていて、アメリカや中国のほか、インドネシアやブラジル等にも拠点を設けているそうです。こうした、日本と外国の垣根を越えた会社体制は、これからますます増えていき、やがては当たり前になると思います。まずパイプ営業の方からは、仕事内容や営業の役割について伺いました。競争相手となる他社や経済等の外部環境を加味したり、客に商品を売った後までサポートしたりと、

想像以上に仕事が多岐に渡っていることがわかりました。正解がわからない仕事な為、仲間と議論を重ねて最適解を追求していくのが面白いとおっしゃっていました。次に、法務の業務について話を聞きました。主にサポートを行うそうで、訴訟・クレームへの対応やトラブル防止に努めているそうです。私達へのメッセージとして、「後悔しないように。迷ったらやる。」という言葉が特に心に響きました。やった後悔はやらなかった後悔よりも小さいという言葉をよく耳にしますが、本当にその通りなのだと思います。続いて、技術の方のお話では、新商品開発のために実験を重ね、開発までの道のりには必ず失敗が必要ということを知りました。私はそれは他のことにも言えることだと感じました。新しいものや成功を得るためには、必ず失敗を経験しなくてはならないということです。最後に、広報・CSRの方のお話でした。会社内で起こっていることを会社外に広めることを目的として、会社の顔と呼ばれているそうです。「点と点が将来繋がると信じよう」という言葉をいただきました。今回のディレクトフォースを通して、それぞれの部門でひとつの会社という大きな組織を違う面で支えていることを感じました。お話を伺った後は、グループごとに話し合いを行いました。現在自分が取り組んでいることが、将来どのように役立つかについては、部活動に関する取り組みが多かったです。計画を立てて目標を見据えてから物事に取り組むこと等が挙げられました。また、日本人は外国人に比べてなかなか自分の意見を表に出さないことも議題になりました。社会に出るとより一層自己主張が求められるので、常に自分の意志を持つこと、それを前に出すことが重要だと感じました。ただ、発言するには相手の主張も聞かないといけいないので、積極的に意見を述べることと相手の意見をよく聞くことは、実は紙一重なのではないかと話し合いの中で思いました。両方をバランスよく行うことが理想的だと思います。

『OBOGによる懇談会』

二高を卒業された先輩方に、大学生活や受験、高校時代のことなどを直接お聞きすることができる大変貴重な時間でした。私たちにとって、OBOGの先輩は身近に感じられ、そのぶんひとつひとつのお話にとっても説得力がありました。二高には素晴らしい先輩がたくさんいることを改めて知りました。パンフレットには決して載っていないような実際の大学生活についても話を聞けたので、より現実的でとても為になりました。先輩方は大学進学後、学業の他に自分のやりたいことや好きなことを実行していてすごいと思いました。同じ大学や同じ学部に通っていても、進みたい方向も学んでいることも人それぞれで、本当に多種多様な生き方があるんだなあと感じました。何をしたいのかということが明確にわかっているからできるのだと思います。それぞれがビジョンに向かって充実した大学生活を送っている姿を見て、良い刺激をたくさんもらうことができました。これからの高校生活に役立てそうなことを聞いて良かったです。私も先輩方のように自分のビジョンに向かってやりたいことができるようにしたいです。そのためには、今やらなければいけないことをひとつひとつこなしていくしかない、そう思います。頑張ります。